第 71 回 地学団体研究会 旭川総会　　2017. 8. 25-28

洞爺湖有珠火山マイスター制度の10年間

横山光（北翔大学・北海道支部）・畑吉晃（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会）・洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク

Ten Years of Toya Caldera and Usu Volcano Meister System

Hikaru YOKOYAMA（Hokusho Univ., Hokkaido）, Yoshiaki HATA（Toya-Usu UNESCO global geopark council）,Toya - Usu Volcano Meister Network

洞爺湖有珠火山マイスター制度とは

背景

北海道の南西に位置する有珠山は、江戸時代から噴火を繰り返している活火山である。近年、20～30年おきに噴火をしている有珠山周辺の伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町の1市3町では「火山との共生」が大きなテーマである。次の噴火に備え、そこに暮らす人々自身が、火山の特性を正しく理解し、災害を軽減する知恵や噴火の記憶を伝承していく必要がある。

ねらい

洞爺湖や有珠火山地域の自然や特性について正確な知識を有する住民に「洞爺湖有珠火山マイスター（以下、火山マイスターと表記）」という「地域限定の称号」を与え、次なる噴火に備えた地域防災のリーダーとして認識を持ってもらい、地域防災力の向上を図るとともに、平時においては貴重な地域資源である洞爺湖や有珠火山地域の魅力発信にもその知識を活かしていこうとするものである。

特徴

認定された火山マイスターには、洞爺湖や有珠火山地域の自然や特性を学び、正しい知識、噴火の記憶や災害を軽減する知恵や経験などを、次世代や地域内外の人々に向けて自らの言葉で語り継いでいく役割が期待される。いわば、知識や経験などを生きた形で伝えていく「学びと伝えの実践者」である。

認定方法

火山マイスターには、認定後、地域での実践活動が期待される。そのため、1年に1度実施される認定審査は、有珠山周辺の1市3町に居住している人のみ受験可能である。また、筆記試験はなく、フィールド審査に重点を置く。

■審査の流れ■

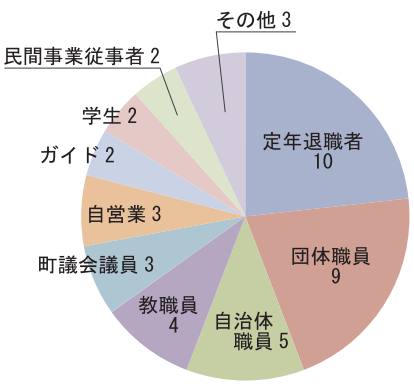
① 受験者は、有珠火山との共生についての理想や考えに関するレポートを提出。（レポート審査）
② 噴火災害遺構などの野外フィールドで、模擬防災学習会の講師を務める。正確な知識とコミュニケーション能力が審査される。（フィールド審査）
③ 面接では、地域に貢献しようとする熱意、知識や技術を高めようとする向上心、認定後の活動ビジョン等が審査される。（面接審査）

洞爺湖有珠火山マイスターのデータ

2017年8月現在、男性33名女性10名の合計43名が認定されている。

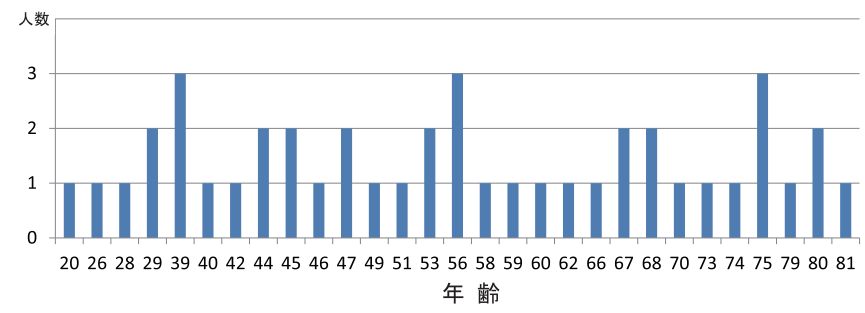
職種（認定時）

制度開始当初は元教員などの定年退職者が多かったが、制度が地域に浸透していくにつれ様々な職種が増えた。



年齢構成（現在）

少子高齢化が進む中、20代から80代までの幅広い世代が認定されている。平均は54.9歳。



活動（2016年実績）

＜伝えの活動＞

火山マイスターネットワーク集計
講師（ガイド）活動実績

回数	案内人数
698回	17,044人

火山ガイド、教育旅行案内、学校等での防災講演会講師、自治体等の視察対応、JICAやユネスコジオパークの国際対応、火山マイスターの名を用いて他団体や個人で対応しているものなどを全て含む。

その他の活動

■防災行事の企画実施　■ガイドブック・雑誌・機関紙等への原稿執筆　■学習テキストの作成
■各種メディアでの情報発信（コミュニティーラジオ番組、新聞でのコラム連載）
■ジオパーク関連大会等での発表　■ジオサイト（災害遺構などのジオパークの見所）整備
■資料・記録の収集

＜学びの活動＞

スキルアップ研修会等開催・参加実績

自主開催	他団体主催
6回	14回

ガイドスキルアップ、リスクマネージメント講習、HUG研修、災害時の心のケア講習、研究報告会、資源調査、各種ワークショップなど幅広い分野で自己研鑽に努めている。

洞爺湖有珠火山マイスターの10年とジオパーク・火山

「火山との共生」という同じ理念の元、火山マイスターは、洞爺湖有珠山ジオパークにおける住民活動の実践者として「火山の恵み」や「災害を軽減する知恵・記憶」を、様々な人に伝える役割を担っている。火山マイスターの10年を「洞爺湖有珠山ジパーク」「日本における主な火山噴火」と共に時間軸に沿ってまとめた。

	火山マイスターの活動等	洞爺湖有珠山ジオパーク	日本の主な火山噴火
2008	火山マイスター制度制定 火山マイスター6名認定	日本ジオパーク加盟認定	
2009	火山マイスター5名認定	世界ジオパーク加盟認定	2009、2011、2014–2016 阿蘇山 長期間に渡って噴火活動を継続
2010	火山マイスター5名認定 有珠山2000年噴火10周年記念学習会 「めざそう火山博士！」自主開催	ジオパーク推進協議会設立	2008–2017 桜島 長期間に渡って活発に噴火活動を継続
2011	火山マイスター5名認定 任意団体 火山マイスターネットワーク設立 ジオパーク全国大会にて広く知られる	第2回日本ジオパーク全国大会 洞爺湖有珠山大会	霧島山（新燃岳） マグマ噴火　2008年頃より小規模な水蒸気噴火が確認されていた
2012	火山マイスター2名認定		
2013	火山マイスター6名認定 日本ジオパーク、世界ジオパーク再審査で高く評価される	日本ジオパーク加盟再認定 世界ジオパーク加盟再認定	小笠原諸島・西之島 噴火に伴い新島が出現　現在も噴火活動が続いている
2014	火山マイスター6名認定	世界ジオパークがネスコ正式事業化	御嶽山 水蒸気噴火　死者58名、日本における戦後最大の火山災害となった
2015	火山マイスター5名認定	昭和新山生成70周年記念事業 （主催：NPO法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会）	口永良部島 マグマ水蒸気噴火
2016	火山マイスター3名認定 火山マイスター養成講座講師開始		箱根山 ごく小規模な水蒸気噴火
2017	御嶽山周辺で火山マイスター制度導入検討委員会に当火山マイスターが参画 ユネスコ世界ジオパーク再認定現地審査で高く評価される	日本ジオパーク加盟再認定 1977年有珠山噴火40周年記念フォーラム （主催：NPO法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会）	20?? 年 次の有珠山噴火？

洞爺湖有珠火山マイスターの課題

日本ジオパーク発足とほぼ同時期に誕生した本制度は、ジオパークの公認ガイド制度と混同されることが多い。これは、各地のジオパークが公認ガイドの養成をどのように行っていくのか試行錯誤した時期に、すでに当地域の火山マイスターがジオパークガイド的な役割を果たしていたことが原因と考えられる。火山マイスターは、必ずしもジオパークガイドではないという制度の本質が、まだまだ浸透していない。また、火山マイスター自身の火山に関する知識や理解力に関する課題も認定委員から指摘されている。

＜認定審査委員が考える課題＞

活動頻度の差、特定の火山マイスターに負担が掛かっていると感じることがある。ガイドをしているかではなくグループ（火山マイスターネットワーク）としての活動に寄与しているかどうかが大事。今後は「火山マイスター」を生涯保持する「称号」ではなく、返上できるシステムの導入を検討すべきかもしれない。

＜火山マイスターが考える課題＞

人数が増え、組織運営の負担は大きくなる。例えば火山マイスター全体で企画実施したい学習会や研修会など。

まとめ ～次の噴火に向けて～

有珠山2000年噴火から17年経過した今、火山マイスターは次の噴火に備えて何ができるのか再考する時期が来ている。有事に何ができるのか、何をすべきなのかをそれぞれの火山マイスターが考え、そのために平常時の普及活動を行う視点が必要である。火山マイスターの活動の成果が正しく評価されるのは、次の噴火の時であることを肝に銘じておきたい。